

MINI MINI MINES

5月22日
木曜日より
全国流通開始

秋田大学鉱業博物館解説書

鑛のきらめき

秋田市内取り扱い書店さま一例

加賀屋書店	さま	高桑書店	さま
ジュンク堂	さま	未来屋書店	さま

など各書店さま



販売価格

1,620円
(8%税込)

皆様からの温かいご支援で、秋田大学鉱業博物館解説書「鑛のきらめき」が5月末から全国の書店に流通することになりました。全国書店での価格は1,620円、流通を通さない鉱業博物館ミュージアムショップでの価格は1,470円になります。フルカラー版、128ページに及び、鉱業博物館の厳選された展示物の解説書です。長年に渡り培われてきた秋田大学の鑛の知識を、解説書を通して皆さんにお伝えできれば幸いです。

平成26年度 第1回

秋田大学鉱業博物館 阿仁郷土文化保存伝承館 連携展

—阿仁鉱山の絵巻—

期間：平成26年4月26日（土）
～5月25日（日）

場所：阿仁郷土文化保存伝承館
(秋田内陸縦貫鉄道 阿仁合駅より徒歩5分)

入館料：大人 300円
高校・大学生 200円
小・中学生以下 無料

開館時間：9:00～17:00
(月曜休館)



昨年鉱業博物館で行われた、平成25年度特別展「阿仁の絵巻がつむぐ150年前の銅プラント」で展示した絵巻物が、北秋田市にある阿仁郷土文化保存伝承館にて再び展示されることになりました。

昨年度特別展では、貴重な江戸時代の絵巻物であるとともに、秋田県の重要な鉱業の歴史を語る資料を間近で鑑賞できるとあって、県内各地などから期間中約2,000人にも及び大勢のお客様に足を運んでいただきました。絵巻には、阿仁鉱山で行われていた銅鉱石の選鉱・製錬の一連の工程が当時の主要な顔料「岩絵の具」が用いられ、描かれています。岩絵の具は「天然の石」のため、大変劣化がしにくい素材です。よって今なお、絵巻の色鮮やかさは衰えることはありません。

また阿仁郷土文化保存伝承館には、博物館所蔵の物とは別の、銅精錬の様子を描いた江戸時代の絵巻物が展示されています。前年度特別展を見に来ていただいた皆様も、長い時を経て出会う2つの絵巻物の邂逅を是非ご覧ください。



鉱業博物館

サイエンスボランティア

募集中!

鉱業博物館では、平成26年度サイエンスボランティアを募集しています。主に館内の案内や見学のサポート、館内整備など、第一線で活躍していただいています。石や化石が好き、何か自分のスキルを生かしてみたいなど、博物館の仕事に興味がある方は是非ご参加ください。詳しくは鉱業博物館事務室までお問い合わせください。ご連絡お待ちしております!

1: 活動内容

見学者への案内と説明、見学者への見学サポート、館内整備等のサポートなど

2: 募集対象

高校生以上の方であれば、どなたでもご参加いただけます。

3: 活動期間

1年間

4: 問い合わせ・申込先

鉱業博物館 事務室
TEL: 018-889-2461



昨年6月に行われた花植と講習会の様子

★ 鑛がきらめいて ★
解説書を
楽しむための
エッセンス
— 秋田鉱山専門学校のお手本
フライベルク鉱山大学 —

秋田大学の前身となった秋田鉱山専門学校は、ドイツにあるフライベルク鉱山大学を参考にカリキュラムを組み、設立されました。ドイツザクセン州ケムニッツにあるフライベルクは、練馬区ほどの面積に現在人口約40,000人が住む大きな町です。12世紀に銀鉱山が発見されたことにより、何世紀もヨーロッパの鉱業の中心として栄えました。その知恵の粋を集めたフライベルク鉱山大学は、欧州初の鉱物学・鉱山技術の学校として名高く、現在も学園都市としてその歴史は受け継がれています。また、その鉱山技術を生かし、環境・リサイクル技術などの分野が盛んに研究されています。



鑛のきらめきより抜粋
フライベルク工科大学 博物館 展示室

鉱業博物館アーカイブス

—1961年、昭和天皇・皇后両陛下ご臨幸—



両陛下を乗せた大型御料車



博物館内をご見学中の両陛下



ご臨幸された昭和天皇・皇后両陛下



建設中の博物館と建設に携わった方々

昭和36年10月8日、鉱業博物館に昭和天皇・皇后両陛下がご臨幸されました。この年に行われた「まごころ国体」開催式に合わせてご来県された両陛下が、我が鉱業博物館をご見学なさることとなったためです。新装された鉱業博物館が両陛下のご臨幸を仰いで開館のスタートを切ったことは、大変喜ばしく、多幸極まれる慶事でした。博物館の資料には、「(前略)一階陳列室の展示品をいともご熱心にご覧になられた。特に皇后陛下は、いちいちご熱心にご覧になって、稍々もすれば遅れ勝ちになられ、先にお進みの天皇陛下が度々お待ちになられたり、お戻りになって皇后陛下にご説明遊ばされたり、誠に美しいお睦まじさが拝された。

(中略)この日のため連日学生、作業員等の流汗奉仕した土の上に。吾々にとって万感交々の一瞬であった。」とあります。両陛下のご臨幸により、博物館に関わるすべての人々の努力、思いが報われたことが伺えます。



建設前の観音台(現在の博物館の場所)と建設中の様子

写真提供: 後藤美千男 氏